

機械産業の発展に向けて決意新たに ～組合設立50周年を迎えて記念式典を開催～

都留機械金属工業 協同組合

ホテル鐘山苑で1月21日に都留機械金属工業協同組合(組合員25社 佐藤壮一理事長)の組合設立50周年記念式典と祝賀会が開催され、組合員を始め来賓及び組合関係者約60人が出席し盛会に行われた。

都留市は古くから甲斐絹による織物が盛んだったことから、甲斐絹を織るのに必要な織機や糸巻きの製造や部品の生産など機械製造の産業基盤が形成され、後に機械産業のまちとして発展してきた。そうした中、昭和47年に市内の機械金属製造業33社により都留機械金属工業協同組合が設立され、富士東部地域の機械金属業界の中心的団体としての活動を続け、昨年50年を迎えた。



参加者揃って記念撮影

記念式典第一部の記念セレモニーでは、佐藤壮一理事長から設立からの経過が話された他、組合の50年のあゆみなどが紹介され、出席者は、都留市周辺の機械器具製造の産業の厚みとその中で組合が果たしてきた役割と歴史を振り返った。

続いて行われた記念講演会では、(公財)やまなし産業支援機構の手塚伸理事長より「ものづくり企業の未来」と題された話があり、今年度作成した組合企業を紹介するPR動画が式典会場で上映された。

第二部の祝賀会では、地元の谷村工業高校卒業生で結成されたおやじバンド、「サタデーナイト」による演奏が行われ会場は大いに盛り上がり、終始和やかな雰囲気です式典の幕を閉じた。

佐藤理事長は「50周年節目の今年度中央会の協力を得て、販路開拓のためのホームページ作成や組合のPR動画を作成し、組合の強みを活かした新たな分野進出へ向けて取り組んできた。これを契機として、60年、更にその後に向けて、これまで以上に組合員一丸となって都留地域経済の発展のため全力を尽くしていきたい。」と組合員とともに決意を新たにされた。

